

## ■アフター5 スター賞 (SⅢ) アラカルト (過去全 30 回の分析)

※第 1 回 (平成 6 年) から第 8 回 (平成 13 年) までは 1,800m で実施

※第 9 回 (平成 14 年) は 1,790m で実施

※第 10 回 (平成 15 年) は 1,190m で実施

※第 14 回 (平成 19 年) は馬インフルエンザの影響で施行日を 9 月 5 日から 11 月 30 日に延期

※記録は令和 6 年 8 月 28 日時点

### ■ 1 番人気から 3 番人気までの馬は 3 着内率が概ね同水準

単勝 1 番人気馬は 12 勝、2 着 4 回、3 着 1 回で、3 着内率が 56.7%、単勝 2 番人気馬は 5 勝、2 着 9 回、3 着 5 回で、3 着内率が 63.3%、単勝 3 番人気馬は 4 勝、2 着 3 回、3 着 9 回で、3 着内率が 53.3%となっている。上位人気グループの馬は同等に評価して良さそうだ。

### ■ 3 番人気以内の馬が 1~3 着を占めた例は 4 回

過去 30 回のうち 21 回は、単勝 3 番人気以内の馬が勝利を収めている。なお、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツーフイニッシュ決着は 12 回、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツースリーフィニッシュ決着は 4 回ある。

### ■ 優勝馬の年齢は 3 歳から 9 歳まで多岐に渡る

馬齢別の勝利数を見ると、3 歳が 6 勝、4 歳が 3 勝、5 歳が 8 勝、6 歳が 4 勝、7 歳が 3 勝、8 歳が 4 勝、9 歳が 2 勝となっている。幅広い年齢層から優勝馬が出ているレースと言って良いだろう。

### ■ 優勝馬の過半数は大井所属

所属別の勝利数を見ると、浦和が 2 勝、船橋が 9 勝、大井が 17 勝、川崎が 2 勝となっている。1 着となった回数を基準とするならば、地元の大井所属馬が優勢だ。

## ■牝馬は1勝、外国産馬は3勝

牝馬の優勝例は第20回（平成25年）のハードデイズナイトのみである。また、外国産馬の優勝例は第12回（平成17年）のロッキーアピール、第16回（平成21年）のケイアイジンジン、第23回（平成28年）のルックスザットキルと、これまでに3回ある。

## ■ハタノアドニスとキタサンミカヅキが“連覇”を達成

複数回の優勝例がある馬は、第10回（平成15年）と第11回（平成16年）を制したハタノアドニス、第24回（平成29年）、第25回（平成30年）、第26回（令和元年）を制したキタサンミカヅキと、現在のところ2頭いる。ハタノアドニスは2年連続の、キタサンミカヅキは3年連続の優勝だ。

## ■騎手別の歴代最多勝記録は「5」

騎手別の勝利数を見ると、5勝の内田博幸騎手が単独トップ。2勝の石崎駿騎手、坂井英光騎手、的場文男騎手、森泰斗騎手が2位タイとなっている。

## ■調教師別の歴代最多勝記録は「3」

調教師別の勝利数を見ると、3勝の川島正行調教師、佐藤賢二調教師、高橋三郎調教師、福永二三雄調教師がトップタイ。小久保智調教師、栗田裕光調教師が2勝で5位タイとなっている。

## ■優勝馬の大半は馬番が1～8番

枠番別の勝利数を見ると、3枠（6勝）が単独トップ。4枠と6枠（各5勝）が2位タイ、1枠と5枠（各4勝）が4位タイとなっている。また、馬番別の勝利数を見ると、6番（6勝）が単独トップ。1番、2番、7番、8番（各3勝）が2位タイである。なお、11番、14番、15番は未だ優勝例がなく、9番、10番、13番、16番もそれぞれ1勝どまりだ。

<伊吹雅也>